

建築ジャーナル

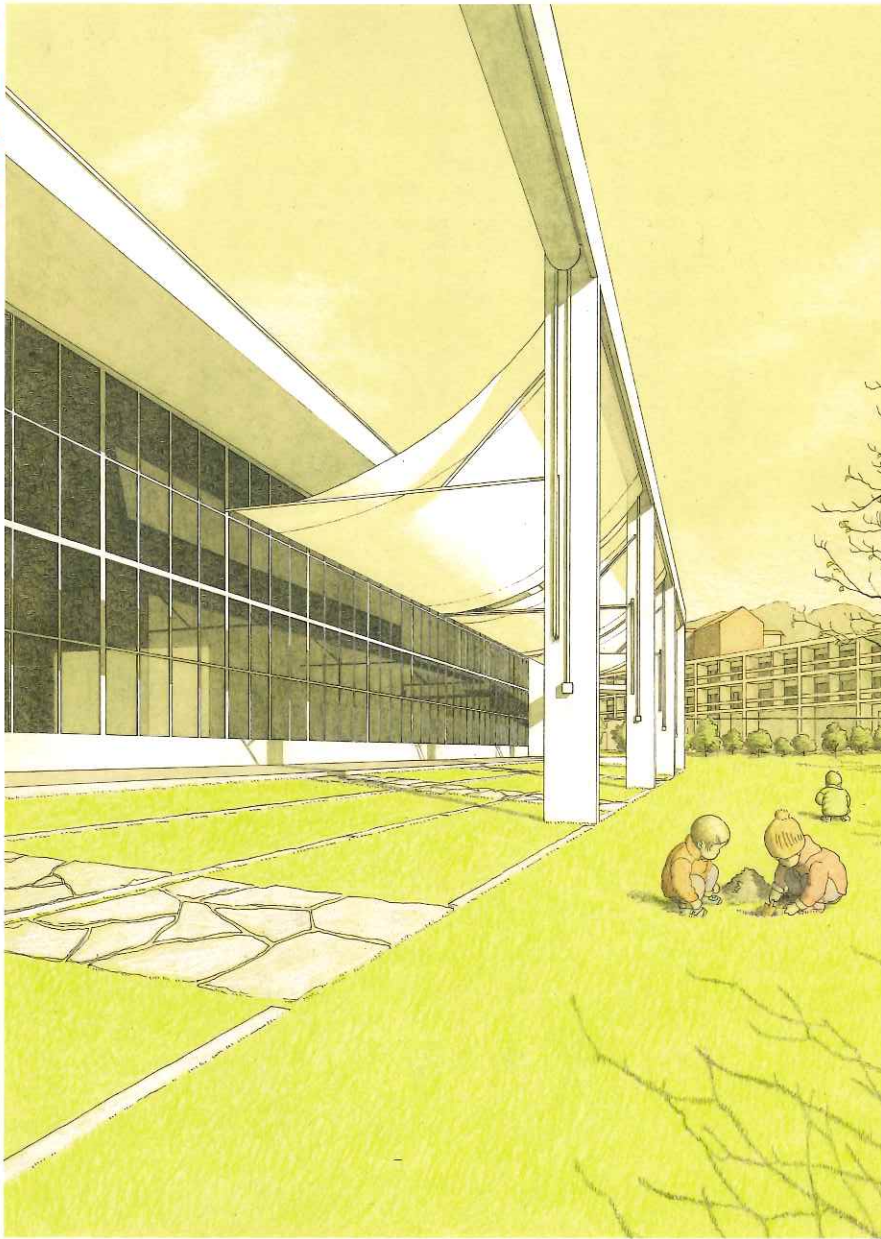
2013年
December
No.1219

定価
900円
(税込み)

第1219号
2013年12月1日発行
(月1回・1日発行)
1964年7月13日
第3種郵便物許可
ISSN 1343-3849

12

イラスト：山本卓郎 | 山本卓郎建築設計事務所



小学校よりも
学童保育にいる時間が長い。
学童保育を
「生活の場」とするためには

真田 祐 | 全国学童保育連絡協議会 事務局次長

子どもたちが安心して遊べるように、
静的・動的な空間を分離して

定行 まり子 | 日本女子大学家政学部住居学科教授

子どもにとって
自由に遊べることは大事だよ

梶木 典子 | 神戸女子大学家政学部准教授

「子ども居場所」をどこで確保する?

国立児童館「こどもの城」は閉館、
全国の児童館は補助金廃止

児童館先進地・東京都杉並区
児童館運営の行方

バンド活動、スポーツ、演劇など
中・高校生の児童館「ゆう杉並」は
子どもたちが自主運営

区内の全施設を見直し、
児童館の機能は存続

山本 あけみ | 杉並区区議会議員

学校とは異なる

「子どもたちの居場所」の安心感

田中 満智子 | 元杉並区児童館館長



◎兼松 紘一郎が巡る
建築家模様⑫
建築が宿す
コスモロジー
中村 享一

◎地域の話題
那覇市民会館と
長崎市公会堂の
保存問題を考える
根路 銘安史



居場所をつくる
子どもの

特集

建築最新事情
こども施設
特集
各地域に拠点を置く
設計事務所の作品集
建築集



外観

子育て支援カフェなど随所に新たな試みのある認定こども園

代々木至誠こども園 | 設計監理：渡辺治建築都市設計事務所

待機児童解消のための保育園型認定こども園で、渋谷区が事業者を募集し、保育内容や施設設計を含めてコンペで決められた。渋谷区の所有する敷地で民設民営の施設である。

敷地は山手通りに面しているために、アプローチ路の庇とガラスによって交通による騒音から保育環境を守っている。

敷地の形が弓なりにっており、室内外の空間を有効利用し、動線や諸空間を確保するために、自ずと湾曲した建物形態と間仕切りになった。

後部にはマンションが近接しており、プライバシーや音を考慮し、主たる光は長さが50mを越えるトップライトから入れている。

山の手通り側には、光と風を取り入れるために、大きく連続した開口部を確保したために、水平力を負担する樹木のような柱となり、この樹木の形をした柱は、園のシンボルマークともなった。

運営者の至誠学園立川は、100年以上の歴史があり、かねてから積極的

に先駆的な保育を行ってきた。

後ろのマンションへの光環境を配慮し、階段状にセットバックさせたために、柱と梁も階段状の特殊な構造体となった。

代々木という都心で保育園を行うにあたって、乳児がいて、カフェなどに入れない親のストレスを癒すことが、保育上重要であるとし、入り口部には親のストレスをいやすための子育て支援カフェを設けられた。

3階には、広い図書館と遊戯室があるなど、従来の保育園にはなかった新たな試みが随所にある。

またスタッフのためのアーカイブ（作業場所）や休憩場所が十分に設けられているなどして、近未来の父兄になるスタッフの就労環境にも目を配っている。少子化の中、こどもをあずけて親が共働きすることが当たり前とするムードが高まり、急激に保育園が増設されているが、このような時にこそ、「保育」とは何のために行われるか考えるよい機会になった。（渡辺 治）



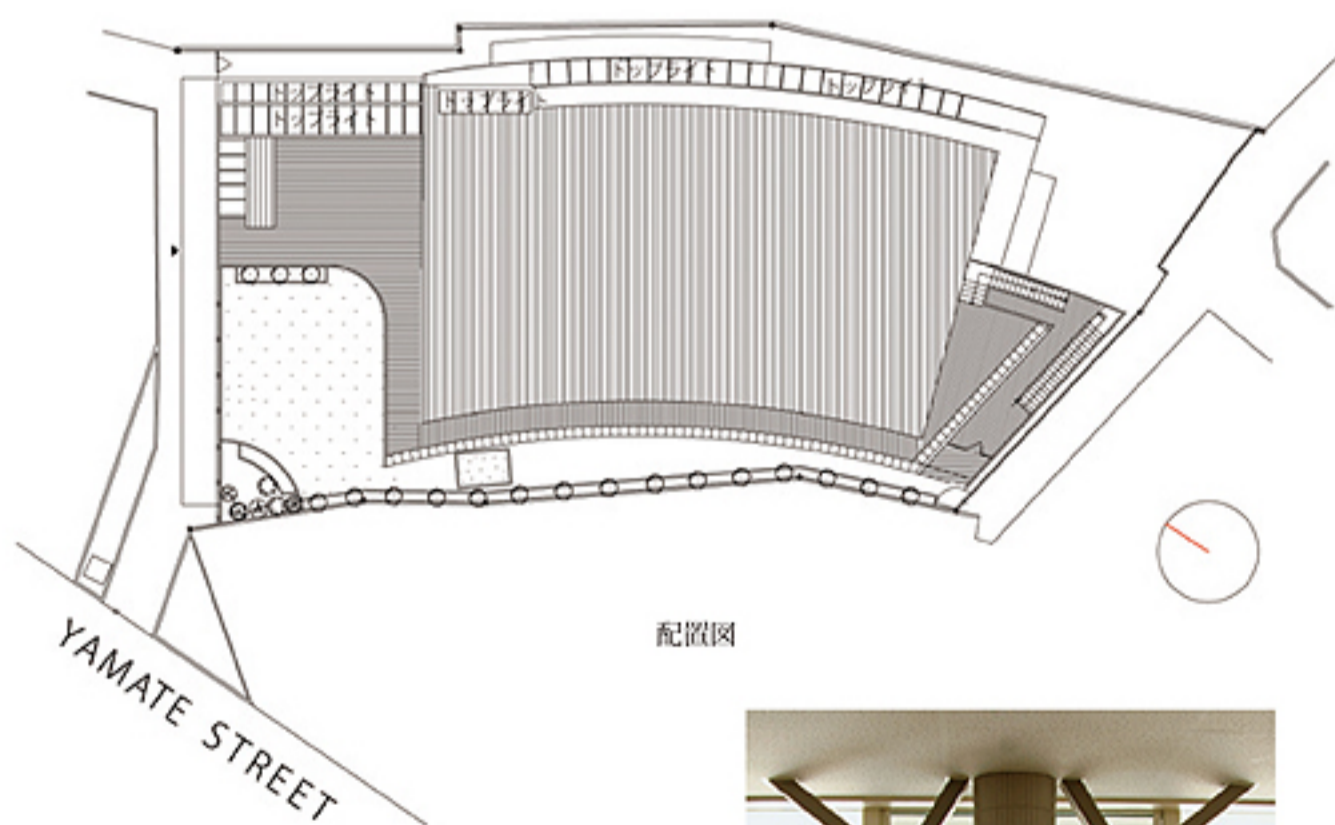
外観



外観



上左|舞台 上右|階段 下左|デリ 下右|デリ



配置図



所在地 東京都渋谷区代々木 5-14-16
 建築主 社会福祉法人 至誠学園立川
 用途 認定こども園
 員数 135人
 施工 建築：栗本建設工業
 電気：シズデン
 空調・衛生：ケイヨー水工
 昇降機：フジテック
 構造・規模 S造 地上3階
 敷地面積 1,349.31㎡
 延床面積 806.42㎡
 竣工 2013年3月
 撮影 永石写真事務所・渡辺治建築都市設計事務所



柱

外観